大学･高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学　ハイレベル枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F128110108654	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）
大学名	神戸大学	設置区分	国立	事業計画名	神戸大学システム情報学カレッジ構想による高度情報専門人材の育成
学校種	大学	都道府県	兵庫		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	3月　システム情報学部システム情報学科収容定員に係る学則変更認可申請	3月　システム情報学部システム情報学科収容定員に係る学則変更認可申請	令和5年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 9月～令和6年6月　施設整備のための設計業務（初年度）、地盤調査、入札手続きの実施 ② 2月　博士前期課程第2期留学生特別入試及び博士前期課程第2期一般入試の実施（次年度以降、必要に応じて継続）	① 9月～令和6年6月　施設整備のための設計業務（初年度）、地盤調査、入札手続きの実施 ② 2月　博士前期課程第2期留学生特別入試及び博士前期課程第2期一般入試の実施（次年度以降、必要に応じて継続）		
令和6年度	6月　システム情報学部システム情報学科　学科の設置届出予定	7月　システム情報学部システム情報学科　学部の設置届出	令和6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 4月　博士前期課程入学定員15名増員、新規採用教員着任（教授1名（情報基礎教育プログラム担当）、特命助教2名（情報基礎教育プログラム・C3ユニット教育プログラム担当）） ② 4月　スモールリサーチラボの設置及び共同研究講座の開設 [ハイレベル取組B] ③ 4月～12月　情報基礎教育プログラムの開発 [ハイレベル取組A] ④ 7月～8月　博士前期課程留学生特別入試、特別推薦入試の実施（次年度以降継続） ⑤ 10月～1月　システム情報学部（仮称）での女子枠を含む学校推薦型選抜、総合型選抜の実施（次年度以降継続） ⑥ 6月まで　施設整備のための設計業務の実施（2年目） ⑦ 4月～令和7年10月　入札手続き、施設整備のための工事（初年度）の実施	① 4月　博士前期課程入学定員15名増員、新規採用教員着任（教授3名（情報基礎教育プログラム担当1名・C3ユニット教育プログラム担当1名・企業・自治体連携プログラム担当1名）、特命助教2名（情報基礎教育プログラム・C3ユニット教育プログラム担当）） 2月　新規採用教員着任（准教授1名（情報基礎教育プログラム担当）） 3月　新規採用教員着任（准教授1名（企業・自治体連携プログラム担当））（承認日：令和7年4月8日） ② 令和5年10月　スモールリサーチラボの設置及び3月　共同研究講座の開設を1月から3月の諮会議を経て令和7年4月設置が決定 [ハイレベル取組B] ③ 4月～12月　情報基礎教育プログラムの開発 [ハイレベル取組A] ④ 7月～1月　博士前期課程留学生特別入試（8月、11月、1月）特別推薦入試（7月）の実施（次年度以降継続） ⑤ 9月～2月　システム情報学部での学校推薦型選抜（女子枠）、総合型選抜の実施（次年度以降継続） ⑥ 6月まで　施設整備のための設計業務の実施（2年目） ⑦ 4月～令和7年10月　入札手続き、施設整備のための工事（初年度）の実施（1月から2月　システム棟教員研究室等の改修の実施、2月から3月　什器類・情報機器類の整備）		
令和7年度	システム情報学研究科システム情報学専攻（博士前期課程）8名増員（入学定員103名） システム情報学部（仮称）を設置（入学定員150名）	システム情報学研究科システム情報学専攻（博士前期課程）8名増員（入学定員103名） システム情報学部を設置（入学定員150名）	令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	① 4月　システム情報学部（仮称）設置・入学定員43名増員、博士前期課程入学定員8名増員 ② 4月　新規採用教員着任（教授2名（C3ユニット教育プログラム担当1名、企業・自治体連携プログラム担当1名）、准教授1名（情報基礎教育プログラム担当））、特命助教１名（情報基礎教育プログラム担当）） ③ 4月　情報基礎教育プログラムの開始 [ハイレベル取組A] ④ 10月まで　施設整備のための工事の実施（2年目） ⑤ ４月～　令和15年3月　前年度採用教員を引き続き雇用 ⑥ ４月～　令和15年3月　施設設備の維持管理	① 4月　システム情報学部設置・入学定員43名増員、博士前期課程入学定員8名増員 ② 4月　新規採用教員着任（准教授1名（C3ユニット教育プログラム担当））、特命助教4名（情報基礎教育プログラム担当2名、企業・自治体連携プログラム担当1名、C3ユニット教育プログラム担当1名）） 6月　新規採用教員着任（特命助教1名（C3ユニット教育プログラム担当）） 3月　新規採用教員着任（特命講師1名（企業・自治体連携プログラム担当）、特命助教1名（企業・自治体連携プログラム担当）） ③ 4月　情報基礎教育プログラムの開始 [ハイレベル取組A] ④ 11月まで　施設整備のための工事の実施（2年目） ⑤ ４月～　令和15年3月　前年度採用教員を引き続き雇用 ⑥ ４月～　令和15年3月　施設設備の維持管理		
令和8年度			令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月　新規採用教員着任（准教授2名（C3ユニット教育プログラム担当1名、企業・自治体連携プログラム担当1名）、特命助教2名（C3ユニット教育プログラム担当1名、企業・自治体連携プログラム担当1名）） ② 4月　C3（シー・キューブ）ユニット教育プログラムの学部への展開開始 [ハイレベル取組A] ③ 4月～3月　情報基礎教育プログラムのオンデマンド教材・多様なレベルの教材の開発 [ハイレベル取組A] ④ 4月～3月　各種取組を継続実施 ⑤ ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用 ⑥ 10月　AIサイバーフィジカルレジリエンスセンター（仮称）の設置（R8.3.26承認） ⑦ 4月　一般社団法人CSIコンソーシアム（仮称）の設立（R8.3.26承認） ⑧ 10月　新規採用教員着任（教授1名・助教1名（「AI x システム」の研究教育担当））※自己財源による取組（R8.3.26承認） ⑨ 10月　AI x システム、システムレジリエンス分野の教育コンテンツの調査開始（R8.3.26承認） ⑩ 10月　理化学研究所との連携研究(計算科学、AI, 量子の融合研究)の検討（R8.3.26承認） ⑪ 10月　コンソを通したAI-CPR(AIサイバーフィジカルレジリエンス)に関する企業課題の調査開始（R8.3.26承認） ⑫ 10月～3月　教員研究室等の整備改修（R8.3.26承認）		
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月　CSIメタラボラトリの開始 [ハイレベル取組A・B] ② 4月　情報基礎教育プログラムの中学・高校への展開開始 [ハイレベル取組A] ③ 4月　C3（シー・キューブ）ユニット教育プログラムの他大学・高専・高校への展開開始[ハイレベル取組A] ④ 4月～3月　各種取組を継続実施 ⑤ ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用 ⑥ 4月　新規採用教員着任（特命助教3名（「AI x システム」の研究教育担当））（R8.3.26承認） ⑦ 4月　企業課題のC3プログラムへの展開開始（R8.3.26承認） ⑧ 4月　非常勤講師による授業開始（「システムレジリエンス」「AI x システム」分野担当）（R8.3.26承認） ⑨ 4月　博士課程に卓越社会人博士制度の導入（R8.3.26承認） ⑩ 4月～3月　教員研究室等の整備（R8.3.26承認） ⑪ 10月　AI x システム、システムレジリエンス分野の教育コンテンツの開発開始（R8.3.26承認） ⑫ 10月　理化学研究所との連携研究(計算科学、AI, 量子の融合研究)の開始（R8.3.26承認）		
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月　新規採用教員着任（特命助教4名（情報基礎教育プログラム・C3ユニット教育プログラム担当各1名・「AI x システム」研究教育担当2名））（R8.3.26承認） ② 4月　奨学金等の学生支援制度の開始 [ハイレベル取組B] ③ 4月　情報基礎教育プログラムの他大学・高専への展開開始 [ハイレベル取組A] ④ 4月～3月　各種取組を継続実施 ⑤ ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用 ⑥ 4月　企業課題のC3プログラムへの展開開始（R8.3.26承認） ⑦ 4月　AI x システム、システムレジリエンス分野の教育コンテンツの情報基礎教育プログラムやC3プログラムへの追加開始（R8.3.26承認） ⑧ 10月　博士課程に卓越社会人博士制度の導入（R8.3.26承認） ⑨ 4月～9月　教員研究室等の整備（R8.3.26承認）		
令和11年度	システム情報学研究科システム情報学専攻（博士前期課程）32名増員（入学定員135名）		令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月　博士前期課程入学定員32名増員 ② 4月　神戸CSIインターンシップの開始 [ハイレベル取組B] ③ 4月～3月　各種取組を継続実施 ④ ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用 ⑤ 4月　他部局へのCSI基礎プログラムの提供開始（R8.3.26承認） ⑥ 4月　理化学研究所（R-CCS, AIP）連携大学院制度を通したハイブリッド計算科学やAI技術に関する全学的な教育の開始（R8.3.26承認） ⑦ 4月　「未来デジタル人材育成エコシステム神戸モデル」の検討、構築の開始（R8.3.26承認） ⑧ 10月　ジョブ型研究インターンの導入（R8.3.26承認）			
令和12年度	システム情報学研究科システム情報学専攻（博士前期課程）5名増員（入学定員140名）（R8.3.26承認）		令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～3月　各種取組を継続実施 ② ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用 ③ 4月　博士前期課程入学定員5名増員（R8.3.26承認）			
令和13年度	システム情報学研究科システム情報学専攻（博士後期課程）9名増員（入学定員21名）		令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月　博士後期課程入学定員9名増員 ② 4月　オーダーメイド博士課程カリキュラムの開始 [ハイレベル取組B] ③ 4月～3月　各種取組を継続実施 ④ ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用			
令和14年度	システム情報学研究科システム情報学専攻（博士後期課程）3名増員（入学定員24名）（R8.3.26承認）		令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	① 4月～3月　各種取組を継続実施 ② ４月～　令和15年3月　前年度以前採用教員を引き続き雇用 ③ 4月　博士後期課程入学定員3名増員（R8.3.26承認）			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神戸大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

⑨ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）５名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
すべての項目が要件を満たしている												

①～⑬の要件を満たしていない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑬,⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑬文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	認定を受けている
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４－１.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報学研究科では、神戸市や三田市との連携のもと、それぞれの自治体が持つ様々な社会的課題を取り上げて、システム情報学の観点から解決することを目的としたPBL科目を実施し、人材育成を行った実績がある。これらの実績を踏まえ、学部に展開予定の異分野共創C3ユニット教育プログラムの枠組みを用いて、教員・学生と自治体や企業が連携協力するPBL型の授業科目を新規に設定する。加えて、神戸経済同友会、神戸商工会議所、兵庫工業会などの業界団体や、地域 ICT 推進協議会、KOBEスマートシティ推進コンソーシアムなどのICT推進組織、神戸デジタル・ラボなどの地元企業とも連携し、実務経験者による授業や企業インターンシップを通した実践的教育を展開する。また、富士通による「シミュレーション×AI」をテーマとするスモールリサーチラボやエイチ・ツー・オー リテイリングによる先端スマート技術に関する共同研究講座を研究科内に開設し、継続的な共同研究を実施するとともに、双方向の教育、すなわち、企業から派遣された研究者や技術者による実践的教育と、企業の技術者などに対するリカレント教育を強力に推進する。更に、学生に対する経済的支援の取組として、神戸市の協力のもと、留学補助や奨学金の制度を創設する。	システム情報学研究科内に設置されている「CSI高度情報専門人材育成推進センター(CSIセンター）」を中心に、以下の取り組みを行っている。 ・システム情報学部１年次の講義である「システム情報学入門」において、理化学研究所計算科学研究センター（R-CCS）、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）、三菱電機株式会社の実務経験者であり、かつシステム情報学研究科の連携講座の教員により、研究成果、今後の展開に関する講義を実施した。 ・Microsoft AI Co-Innovation Lab Kobeより講師を招き、民間企業とのAI共同開発例や将来の展望についての講義を実施した。 ・株式会社神戸デジタル・ラボやプライムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社から産業界におけるシステム情報学に関する講演を行った。 ・海外在住の神戸大学卒業生による国際的に活躍するための考え方に関する講演を実施した。 ・大学院における異分野共創C3ユニット教育プログラムの「システム情報学講究」「システム情報学実践」「システム情報学総合講究」「システム情報学総合実践」については、複数研究室や学外機関との連携を推進するため、プロジェクト構成方法を従来方法から抜本的に変更し、異分野異世代共創を推進した。前期（プロジェクト数24、発表件数52）、後期（プロジェクト数27、発表件数50）に発表会を実施し、前期は8企業、1自治体、2学内組織より25名の参加、後期は5企業、1自治体、1自治体外郭団体、1学内組織より19名の参加があった。特に、前期後期を通してソニーセミコンダクタソリューションズ協力によるプロジェクトを、後期には神戸市公園緑化協会の課題提供によるプロジェクトを実施した。 ・↩「企業自治体連携プログラム」では、システム情報学研究と企業の橋渡しを行うための組織として、CSIコンソーシアムの設立を準備している。このコンソーシアムにより、デジタル技術を活用した価値創造を担う高度情報専門人材の育成および地域社会への定着を促す予定である。 上記取組のほか、上記機関との連携により、「量子コンピュータって何？」学生向けセミナー（8月）、神戸AIサマーフェスティバル2025「AI×クリエイティブの祭典」（8月14日）、第2回「学生ハッカソン@Microsoft神戸AIラボ」等、神戸市で開催された先端的な情報技術のイベントに、教員と学生が参加している。また、一般社団法人大学都市神戸産官学プラットフォームが主催の「KOBEインターンシップ・就業体験プログラム」に3名の学部生が参加し、地元企業でのインターンシップを体験している。さらに、神戸市が主催した「Microsoft AI Co-Innovation Lab KOBE 学生×企業共同開発プログラム」に学生4名が参加し、実際の企業課題に触れ、AI・デジタル技術の実践経験を積んだ。加えて、神戸市経済観光局が主導する「エンジニア志向の学生向けシリコンバレー派遣プログラム」（3月8日～14日）との連携を行い、このプログラムに、システム情報学部2名、工学部情報知能工学科1名の学部生が参加した。 このように、自治体や企業等と積極的に連携を行っている。	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本計画で開発する情報基礎教育プログラムは、情報系の教育に最適化された基礎教育であり、その一部について、内容と分量を調整することにより、中高生向きにアレンジする。これを神戸大学附属中等教育学校をはじめ、近隣の中学校・高等学校に展開することにより、中高生に情報系の基礎知識を習得させるとともに、早期にシステム情報学の魅力に触れさせ、将来、関連分野に進学する動機づけとする。また、異分野共創C3ユニット教育プログラムとして実施しているPBL教育を高校生に対しても開放し、システム情報学に対するより深い興味と理解を促す。中学校・高等学校への展開に際しては、本学の高大接続卓越グローバル人材育成センターが実施している科学に強い興味を持つ優秀な初等中等教育段階の生徒に向けたJSTジュニアドクター育成事業「神戸みらい博士育成道場」、並びにJSTグローバルサイエンスキャンパス「“越える”力を育む国際的科学技術人材育成プログラムROOT」の2つの人材育成プログラムの活用を図るとともに、これらのプログラムの修了者が神戸大学システム情報学部（仮）に入学する場合は、修了証をもって授業科目の単位の一部に振り替えることも計画する。	システム情報学研究科内に設置されている「CSI高度情報専門人材育成推進センター(CSIセンター）」を中心に以下の項目を進めている。 令和7年度には、システム情報学部の情報基礎教育プログラムを開始し、反転教養教育に基づき、1年次から専門科目や、専門に特化した英語教育である数理情報英語の講義を行っている。1名の特命講師と6名の特命助教を新たに採用した。前年度に採用した特命助教2名と合めて、８名の体制で、情報基礎教育プログラムに関連する演習教育に参画している。令和7年8月にシステム情報学部のオープンキャンパスを開催し、反転教養教育を含めた情報基礎教育プログラムや、C3ユニット教育プログラム等の教育内容について、高校生やその保護者に対し説明した。また、学部生と教員によるパネルディスカッションや個別相談会を実施し、多数の高校生が参加した。神戸大学の大学祭(六甲祭)において進学相談会2025を開催し、教授４名で対応し、複数名の高校生と保護者に説明した。6月に高校教員対象の神戸大学入試説明会に参加し、システム情報学部の説明を行った。地域の工業高等専門学校の連携として、明石工業高等専門学校及び神戸市立工業高等専門学校と教育研究交流に関する協定を締結している。その一環として、C3教育プログラムを高専の本科生のインターシップ授業として拡張し、受け入れを開始している。実際には夏季休暇中に神戸市工業高等専門学校専門学校の本科生9名がシステム情報学研究科の研究室において受講した。令和7年7月に大阪府立泉陽高校からの来訪を受け、生徒7名にシステム情報学部の模擬講義と研究室見学を受け入れている。令和7年11月に兵庫高校キャンパストライアルを受け入れ、生徒17名がシステム情報学研究科の模擬講義を受講するとともに、研究室の見学を行った。出張講義として、兵庫県立長田高校、兵庫県立西宮高校（31名、33名）、海星女子学院高校、明石工業高等専門学校専門学校、神戸市立工業高等専門学校に教員を派遣し、講義と学部説明を行った。 システム情報学入門の中等教育への展開に向けて、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）認定校の一つである兵庫県立兵庫高校との連携を開始している。システム情報学研究科が提供でき、かつ高校の情報教育に貢献できる内容について議論した。令和8年度において、生成AIを用いた実験計画作成に関する講義を行う予定である。	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
女子学生に対しては、近隣高校、特に女子高への広報活動や、情報基礎教育プログラムの一部を中高生向きにアレンジした教材による出前講義を積極的に実施し、生徒へのシステム情報学への関心を醸成する。加えて、特に理系科目に関して優秀な生徒の確保のために、高校における成績や活動実績及び共通テストの成績と面接に基づいて判断する学校推薦型選抜を新たに整備するとともに、その中で女子枠を設定する。大学院への進学については、従来の推薦入試枠を拡充し、理系に強い関心を示す優秀な女子学生の受入れを促進する。企業社会人に対しては企業との連携強化を念頭に博士課程への社会人学生の受入れを積極的に進める。各企業からのリカレント教育のニーズにマッチする内容のカリキュラムをオーダーメイド設計する枠組みを導入するとともに、C3ユニット教育プログラムを活用した産学共創共同研究を通して、社会人の博士課程への入学意欲の向上を図る。また、留学生の更なる確保に向けて、英語のみで受験できる大学院入試や、英語のみで履修・修了が可能な教育プログラムを新規に設定し、海外協定大学を含め広く海外から優秀な留学生を確保する。	令和7年4月には28名の女子学生（学校推薦型（女子枠）15名＋一般13名）がシステム情報学部に入学し、定員150名に対して、約19%が女子となった。一般入試で入学した女子学生も例年より増えている。令和7年8月には、理系女子向けオープンキャンパスを行い、女性教員による学部説明・研究紹介、女子学生と女子高校生とのオンライン交流会等を実施し、女子学生志願者を増やす試みを行った。令和6年度に開始した学校推薦型選抜（女子枠）を引き続き実施した結果、日本全国の複数の高校から50人の出願があった。書類審査、口頭試問、大学入学共通テストによる学力検査の結果、入学定員に等しい15名が合格し、令和8年度に入学した。令和7年度実施の大学院博士前期課程一般入試では、入試科目に関して、専門科目の選択数を変更することにより、他大学や、留学生の受験者数が大幅に増加した。留学生の更なる確保に向けては、令和8年度実施の大学院博士課程前期課程外国人留学生特別入試について英語のみで受験可能とする予定であり、その内容を研究科HP等において周知した。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神戸大学

④　他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和5年度より既に大学院で実施している異分野共創を目的としたPBLによるC3ユニット教育プログラムを学部レベルに展開するとともに、兵庫県立大、甲南大、神戸薬科大、神戸学院大、武庫川女子大、神戸市立高専、明石高専などの近隣連携大学・高専の学生・教員も参加できるよう開放し、PBLを通した学生相互交流を促す。同時に、情報基礎教育プログラムの開発・相互利用・単位互換を連携して推進する。また、スパコン利用のための並列計算プログラミングの基本技術を習得する「KOBE HPCサマースクール」を理研R-CCS、兵庫県立大と共催で毎年開催しており、これを大学間相互交流プログラムに発展させ、近隣大学・高専にも参加を促す。これらの連携教育活動を通じて、近隣大学や高専の学生が本研究科に進学する意欲を醸成するとともに、特別推薦入試制度を設け、優秀な学生の受入れを促進する。外国の大学に関しては、オスロ大との間で、宇宙環境計算機シミュレーションプログラムを毎年実施し、教員・学生の相互訪問・相互研究指導の実績がある。この枠組みを参考に、C3ユニット教育プログラムの一環として、インサリヨン大、グルノーブル工科大などの海外協定大学の外国人教員による講義や研究指導が可能な体制を構築する。	前年度に引き続き、近隣大学や高専の学生に対して、システム情報学研究科の博士前期課程入試に関するオンライン説明会を3月に実施した。その後、オンライン説明会を公式YouTubeにおいて公開し、約1500回の視聴があった。その結果、令和7年度実施の令和8年度博士前期課程入学試験において外部受験者数（77名）及び、外部合格者数（40名）が前年より大幅に増加した。明石工業高等専門学校及び神戸市立工業高等専門学校とは、それぞれと教育研究交流に関する協定を締結している。令和6年度に協議した通り、システム情報学研究科のC3ユニット教育プログラムを、両工業高等専門学校におけるインターンシップ講義の一環として実施する運用を開始した。令和6年度に参加した神戸市工業高等専門学校の専攻科生１名は、令和8年度大学院博士前期課程の推薦入試を受験し合格となり、令和8年4月に入学した。令和7年度は、神戸市工業高等専門学校の専攻科生3名、本科生9名が本インターンシップに参加した。なお、このうち専攻科生1名は、同協定書にもとづき前期課程の推薦入試を受験予定である。また、「量子コンピュータって何？」学生向けセミナー（8月）、神戸AIサマーフェスティバル2025「AI×クリエイティブの祭典」（8月14日）、第2回「学生ハッカソン@Microsoft 神戸AIラボ」等、神戸市で開催された先端的な情報技術のイベントに、学生が参加し、他大学の学生との交流を行っている。「KOBE HPCサマースクール」を理研R-CCS、兵庫県立大と共催で8月後半に開催し、神戸大学や兵庫県立大をはじめとする学生等（学生43名、社会人2名）が受講した。バルセロナ大学および、ボローニャ大学との大学間学生交流実施細則を更新した。オタワ大学との大学間学術交流協定及び学生交流実施細則を更新した。INSA Lyon(フランス国立応用科学院リヨン校)との部局間学術交流協定及び学生交流実施細則を更新した。グルノーブル国立工科大学、グルノーブル・アルプ大学、タンペレ大学との部局間学術交流協定及び部局間学生交流実施細則に係る附属文書（ADDENDUM）の締結により、参画部局に本学のシステム情報学部を追加した。リンショピン大学（理工学部）との部局間学生交流実施細則にシステム情報学部を追加した。国立台湾科学技術大学との部局間学術交流協定および部局間学生交流実施細則にシステム情報学部を追加するADDENDUMを取り交わした。ライデン大学との大学間学術交流協定及び学生交流実施細則を更新した。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神戸大学

４－２.審査要項における確認項目（３つの取組、６つの観点）の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ申請時の計画を記載してください（３つの取組のみ計画の記載は不要です）。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

＜３つの取組＞

□ チェック　[１]海外のトップ大学と連携するなどして、デジタル分野の第一人者として国際的に活躍できる世界トップレベルの研究者や技術者の輩出を図る取組となっているか。
■ チェック　[２]デジタル人材の不足を解消するために、自大学の教育の高度化や定員の大幅な拡充を図るのみならず、他の大学・高等専門学校の学生も広く参加可能な優れた情報教育プログラムを横展開させる取組となっているか。
■ チェック　[３]地域や国の産業戦略とも連携しながら、企業等の具体的な実務課題の解決に取組むことで企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出することにより、地域や我が国の産業振興に大きく資する取組となっているか。

取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報学研究科内に設置されている「CSI高度情報専門人材育成推進センター(CSIセンター）」を中心に、令和5年度に策定した3つのミッション「1. 情報基礎教育プログラムの開発と展開」「2. C3ユニット教育プログラムの開発と展開」「3. 企業自治体連携プログラムの開発と実施」の取り組みを進めている。 「1.情報基礎教育プログラムの開発と展開」について、令和7年度には、システム情報学部の情報基礎教育プログラムを開始し、反転教養教育に基づき、１年次から専門科目や、専門に特化した英語教育である数理情報英語の講義を行っている。特命助教6名、特命講師1名を新たに採用し、前年度に採用した2名と合めた9名の体制で、情報基礎教育プログラムに関連する演習教育に参画している。「システム情報学入門」では、システム情報学の学問体系、博士号取得を含めたキャリア形成、国際的なグローバル人材としての未来、公的機関や民間企業で展開されている先端情報技術の紹介やこれからの展望について講義を行った。ここでは、部局内外の教員、大学院生、卒業生、公的研究機関の研究者や、民間企業の実務に携わる研究者、技術者等、多彩な方の協力を得た。また、情報倫理やセキュリティを学べる構成とし、教育養成を含めた情報社会で安全かつ責任ある行動ができる人材の育成に努めている。「数理情報英語」では、A:数学、B:科学、C：システム工学、D：情報学の４科目の構成で、専門英語教育を行っている。この講義では、座学だけではなく、グループディスカッション、プレゼンテーション等に多くの時間を使い、英語を学ぶだけではなく、英語で専門科目を学ぶための工夫を取り入れている。情報基礎教育プログラムの外部展開として、数学を含む専門科目について、その内容を検討している。理論や概要説明だけでなく、例題や演習を取り入れた実践的な構成を考えている。令和7年8月にシステム情報学部のオープンキャンパスを開催し、反転教養教育を含めた情報基礎教育プログラムや、C3ユニット教育プログラム等の教育内容について、高校生やその保護者に対し説明した。また、学部生と教員によるパネルディスカッションや個別相談会を実施し、多数の高校生が参加した。神戸大学の大学祭(六甲祭)において進学相談会2025を開催し、教授4名で対応し、複数名の高校生と保護者に説明した。6月に高校教員対象の神戸大学入試説明会に参加し、システム情報学部の説明を行った。システム情報学入門の中等教育への展開に向けて、高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）認定校の一つである兵庫県立兵庫高校との連携を開始している。システム情報学研究科が提供でき、かつ高校の情報教育に貢献できる内容について議論した。令和8年度において、生成AIを用いた実験計画作成に関する講義を行う予定である。 「2.C3ユニット教育プログラムの開発と展開」について、引き続き、C3ユニット教育プログラムを学部展開するための議論を行った。また、大学院博士課程前期課程の「システム情報学講究」「システム情報学実践」、及び、大学院博士課程後期課程の「システム情報学総合講究」「システム情報学総合実践」の中間報告会（9月1日、2日）に、外部機関の方々に参画いただき、現状の評価、改善点、社会課題の共有に向けた準備等を進めている。また、10月からは神戸市公園緑化協会との連携で、「緑の価値の可視化」プロジェクトを行い、学生による提案を行った。さらに、高専との連携として、8～9月にCSI-C3インターンシップを実施し、神戸市立工業高等専門学校から専攻科生3名、本科生9名を受け入れた。そのうち専攻科生1名が、神戸市立工業高等専門学校の協定に基づき、大学院の推薦入試候補者としてR8年度大学院推薦入試を受験する予定である。 「3.企業自治体連携プログラムの開発と実施」について、神戸市の担当者と前年から継続的に議論している。「量子コンピュータって何？」学生向けセミナー（8月）、神戸AIサマーフェスティバル2025「AI×クリエイティブの祭典」（8月14日）、第2回「学生ハッカソン@Microsoft 神戸AIラボ」等（9月）、「Microsoft AI Co-Innovation Lab KOBE 学生×企業共同開発プログラム」（9月～12月）に大学院学生、学部学生が多数参加した。また、神戸市経済観光局が主導する「エンジニア志向の学生向けシリコンバレー派遣プログラム」（3月8日～14日）との連携を行い、システム情報学部、工学部情報知能工学科の学部生が参加した。	

＜６つの観点＞

① 大学院博士課程を含め、情報系分野の大学院において、大規模な定員増を実施する計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
前期課程、後期課程の定員はそれぞれ80名から135名（+55名）、12名から21名（+9名）に増員する。令和7年度に設置計画中のシステム情報学部（仮）の定員は現在の工学部情報知能工学科の定員107名から150名（+43名）に増員するが、増員の一部分は学校推薦型選抜および総合型選抜の入試定員に振り分け、女子枠を設けて、特に理数系に秀でた学生や女子学生を積極的に受け入れる。前期課程はこれまで学部定員のおよそ8割が進学しているため、学部定員150名のうち120名程度が前期課程に進学することを見込む。この120名に加えて、高専専攻科および他大学の卒業生、留学生を積極的に受け入れることで、さらに15名の増員を図る。また、特に優秀な学生が学部入学後最短6年間で博士学位を取得可能な枠組みを整備し、留学生の積極的な受け入れと合わせて後期課程への進学者増を図る。	令和7年度は、博士前期課程では、入学定員103名に対し入学者数は98名となった。令和7年度実施の入試については、多くの他大学の学生の受験を促すために、受験科目数を変更している。試験科目の変更の告知等を周知するため外部に向けた入試説明会を行った。この説明を研究科の公式Youtubeにて公開し、多くの視聴回数が得られている。この結果、8月に行った一般選抜入試において、出願者数133名のうち63名が他大学や留学生等の外部学生であり、従来に比べて大幅な外部学生志願者数増加を実現した。また、C3参加の高専生に対する特別推薦などによって優秀な学生を積極的に受け入れるため、博士前期課程推薦入試の募集人員を従来の若干名から令和8年度実施分では20人程度に変更し、研究科HP等で周知した。留学生の確保に向けては、令和8年度実施の博士前期課程 外国人留学生特別入試を英語のみで受験可能とし、研究科HP等において周知を行った。	

② 広く企業や自治体等と連携し、企業や自治体等が求める人材ニーズに的確に応える計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報学研究科は、神戸経済同友会、神戸商工会議所、兵庫工業会との連携を進めている。特に、神戸市域を中心とした中小企業のDX やSDGs の業務を担っている独立系 ICT企業である神戸デジタル・ラボとは緊密な連携関係にあり、地元企業が求める人材ニーズをリアルタイムに把握し、これに対応できる人材育成を進める体制を整備している。神戸市とともに進めている産官学共創の地域連携プラットフォームでは、リカレント教育などを中心に、地元企業が大学等に求める人材育成ニーズの調査を実施する予定である。また、兵庫県下最大のICT関連の産学官連携コンソーシアムである地域ICT推進協議会や神戸市が進めるKOBEスマートシティ推進コンソーシアムへの参画を通じて、地元中小企業を含む会員企業とスマート技術、スマートシティについて検討を進める。これらの連携を通じて、企業や自治体が求める人材ニーズを迅速かつ正確に把握し、それを C3ユニット教育プログラムのテーマ設定やCSIメタラボトリの運営、神戸CSIインターンシップの実施等に反映させることで、人材ニーズに的確に対応する。	システム情報学カレッジと企業との橋渡しを行うための組織として、CSIコンソーシアムの設立を準備している。このコンソーシアムにより、デジタル技術を活用した価値創造を担う高度情報専門人材の育成および地域社会への定着を促す予定である。コンソーシアム立ち上げ後の企業との連携のため、神戸市商工会議所との意見交換を行うとともに、地元企業のWDBホールディングスやミックウェアからコンソーシアムの機能に関する話し合いを行った。また、学生の地元定着の増加に向けた方策や企業インターンシップ、学生への奨学金制度の実現に向けた話し合いを、神戸市や大学都市神戸産官学プラットフォームとも継続的に行っており、令和7年度は、大学都市神戸産官学プラットフォームが実施したジョブ型就業体験と連携し、工学部情報知能工学科（システム情報学部の前身）から2名の参加があった。また、神戸に設置されたMicrosoft AI Co-Innovation Lab及び神戸市との連携により、学生×企業共同開発プログラムに学生4名が参加した。 令和7年度の大学院におけるC3ユニット教育プログラムにおいては、とくに、前期後期を通してソニーセミコンダクタソリューションズの協力の下でのC3プロジェクトを、後期には神戸市公園緑化協会と課題を共有したC3プロジェクトを実施した。企業や自治体等の連携をさらに促進していくため、C3発表会において関連企業や自治体の参加を呼び掛け、前期は8企業、1自治体、後期は5企業、1自治体、1自治体外郭団体の参加があった。	

③ 連携企業等からの寄附等、外部資金の持続的な獲得が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
地域ICT推進協議会やKOBEスマートシティ推進コンソーシアム、さらに神戸市とともに進めている産官学共創の地域連携プラットフォームなどを活用し、システム情報学研究科の教育研究リソースを地域経済、地域社会が抱える多様な課題解決に活かし、市民生活の向上、地域活性化、生産性の向上を含む産業振興に主体的に取り組む。それらの過程で、例えば、ふるさと納税などの仕組みを通じて、地域企業からの新たな資金獲得や、神戸市にゆかりのある全国の企業から資金提供を受ける。これらの外部資金を活用することにより、CSIメタラボトリの活動を強化するとともに、神戸市とともに高度情報専門人材とその教育者の育成を目的とした奨学金の仕組みづくりを進め、その財源とする。また、富士通の出資によるスモールリサーチラボをシステム情報学研究科内に開設し、継続的な共同研究の実施と、これに関連して企業から派遣された技術者・研究者等の実務家教員による実践的教育を展開する。さらに、神戸大学先端スマート技術研究開発センターの協力のもと、エイチ・ツー・オー リテイリングからの資金提供を受けて、システム情報学研究科内に先端スマート技術に関する共同研究講座を新たに開設し、リカレント教育のための体制を整える。	令和7年度においても、「CSI高度情報専門人材育成推進センター(CSIセンター）」に配置した3名の教授により、令和5年度に策定した3つのミッションの実現に向けて、引き続き取り組んでいる。また、富士通の出資によるスモールリサーチラボ(SRL)やユニテック株式会社とのスマート環境システムに関する共同研究講座の共同研究を継続している。さらに、三菱電機株式会社からの資金提供を受けて、システム情報学研究科内にスマートセンシングに関する共同研究講座を開設することについて審議し、令和8年4月に設置することを決定した。CSIセンターの3番目のミッションである「企業自治体連携プログラムの開発と実施」を推進するにあたり、CSIセンターが主体となって、その枠組みを検討し、CSIコンソーシアムの設立を決定した。CSIコンソーシアムは、システム情報学カレッジと企業との橋渡しを行うための組織であり、「システム情報学入門」授業における実務経験者による研究内容紹介やC3ユニット教育プログラムにおける課題提供など、企業からの協力を得られるよう、検討している。	

④ 高度情報専門人材を育成する大学・高等専門学校において質の高い教育を行う教員を養成・輩出する取組（当該分野の大学教員等の育成）を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報学カレッジとして学部と大学院を一体的に運用し、反転教養教育を導入することにより、専門教育の早期化を図り、学部3年次に卒業研究を終えた後、入学後4年目に大学院に進学し、3年間で博士学位を取得可能な仕組みを設ける。これにより、優秀な学生に対して、学部入学後最短6年間で博士学位取得を可能とする。また、高度情報専門人材である優秀な博士課程学生が卒業後に、地域経済の活性化や人材育成に寄与することを促進するため、例えば、神戸市内立地の企業や大学・高専などの教育機関への就職を条件とした奨学金などの経済支援の仕組みづくりを神戸市と進める。さらに、博士課程学生が、C3ユニット教育プログラムにおいて前期課程や学部の学生を指導すること、ならびに情報基礎教育プログラムの横展開において非常勤講師等として参加することで、教育経験を積ませ、指導力の習得を促す。	システム情報学研究科内に設置されている「CSI高度情報専門人材育成推進センター(CSIセンター）」を中心に以下の項目を進めている。 令和7年度には、システム情報学部の情報基礎教育プログラムを開始し、反転教養教育に基づき、1年次から専門科目や、専門に特化した英語教育である数理情報英語の講義を行っている。学部１年次のシステム情報学入門において、博士学位取得を励行する取り組みを行っている。博士後期課程進学を励行することや、奨学金などの支援体制を紹介する講義を行った。また、米国の企業で働いてる神戸大学の卒業生２名による講義を依頼し、国際的な活躍の意義ややりがい等について学生に周知した。その中で、博士学位を取得することについての国際的な意義についても説明された。令和7年度設置のシステム情報学部において、最短、学部3年、大学院博士課程（前期課程・後期課程）3年の計6年で博士の学位を取得できる枠組みを念頭にしたカリキュラムを開始している。令和7年度１年次のカリキュラムにおいて、学部を３年で卒業するために必要な、2年次の早期履修の要件を満たした学生のうち10名が令和８年度の早期履修を申請している。	

⑤ 連携企業等から実務経験のある人材の大学への派遣、学生が連携企業等においてインターンシップを実施する体制の構築、連携企業等との共同研究実施が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
実務家教員に関しては、既にシステム情報学研究科には三菱電機等との連携講座が設置され、実務家教員が大学院の授業科目を担当している。また、学部1年生向けに新規開講予定のシステム情報学入門の一部は、卒業生や連携企業または地域を代表する実力のあるデジタル技術関連企業の技術者等が実務家教員として担当することを計画している。インターンシップに関しては、学生の経済的補助とキャリア形成補助、地元企業のデジタル技術の習得を目的として、神戸市周辺の企業を中心とするジョブ型インターンシップを実施し、双方の合意が得られた場合には、学生が学籍を保持しつつ当該の企業に就職、博士学位取得後もその企業に勤務する「神戸CSIインターンシップ」制度を創設する。連携企業との共同研究については、富士通と共同で研究科内に設置予定の「シミュレーション×AI」を主題とした「スモールリサーチラボ」や、神戸市と日本マイクロソフトの包括連携協定の活用、設置計画中の先端スマート技術に関する共同研究講座をはじめとして、神戸CSIインターンシップとも連携させながら、CSIメタラボラトリ等を活用して産官学連携の共同研究を進める。	学部の授業である「システム情報学入門」において、実務経験者による研究内容紹介を実施している。令和7年度は、Microsoft AI Co-Innovation Lab Kobe、神戸デジタル・ラボ、プライムプラネットエナジー&ソリューションズから実務経験者の派遣があった。また、システム情報学研究科の連携講座である三菱電機、理化学研究所、ATR、そして共同研究を行っている富士通スモールリサーチラボからも派遣があった。 地元企業におけるインターンシップのため神戸市や大学都市神戸産官学プラットフォームと継続的に行っており、令和7年度は、大学都市神戸産官学プラットフォームが実施したジョブ型就業体験と連携し、工学部情報知能工学科（システム情報学部の前身）から2名参加し、企業研究者や他大学学生とともにAIを活用したアプリケーション開発を行った。また、神戸に設置されたMicrosoft AI Co-Innovation Lab及び神戸市との連携により、学生×企業共同開発プログラムに学生4名が参加し、同様に企業研究者や他大学学生とともにAIを活用したアプリケーション開発を行った。	

⑥ 他大学等の学生も参加できる情報教育プログラムの実施や教材作成等を含む質の高い取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本取組で構築する情報基礎教育プログラムは、早期に情報系の専門科目を履修することを前提とした、数学・物理学・データサイエンス・プログラミングの基礎に関する基礎科目と、システム情報学の考え方を伝えることを目的とする導入講義科目「システム情報学入門」からなる。このプログラムは一般的な理工系のカリキュラムとは異なるが、特に線形代数学、微分積分学、統計学については他科目で必要となる部分を早期に履修する形で情報系の教育に最適化されたものであり、CSI以外の大学等での活用が期待される。そこで、連携する他大学や高専と協力しながら多様なレベルの教材を開発・展開する。その一部はオンデマンド教材として広範な利用を可能とし、地域全体の教育水準の向上を図る。また、「システム情報学入門」については、内容と分量を調整して中高生を対象とした教材を開発し、神戸市などとも連携し、神戸市域を中心に近隣の中高校にも展開することで、早期に幅広く情報系分野の魅力を伝える。さらに、C3ユニット教育プログラムは主に近隣の大学と、CSIメタラボラトリでは主として国内外のトップ大学と連携し、他大学等の教員や学生が参加することで教育効果を高めることを目指す。	令和7年度にシステム情報学部の「情報基礎教育プログラム」を開始している。「数理情報英語」では、各クォーターのテーマを「数学」、「科学」、「システム工学」、「情報学」として、各々で、英語でのグループワークや英語プレゼンテーションを取り入れることにより、専門的なコミュニケーション能力の養成を試みている。専門科目について、他大学の学生が受講できる内容や構成について議論を開始している。数学に関しては、基礎的な例題を取り入れたオンデマンド教材と演習問題が主になる教材を作成し、公開することを考えている。令和９年度中の完成を予定している。他の専門科目についても科目の選定を開始し、数学と同時期の公開を予定している。異分野共創を目的として複数の専門分野を柔軟かつ機動的に連携させる大学院の「異分野共創C3ユニット教育プログラム」では、情報基礎教育プログラムと併せて高専に横展開するための連携構築や意見交換を継続しており、高専の専攻科生のレベルに合わせたものと、本科生に合わせたプログラムの展開を介している。明石工業高等専門学校と神戸市立工業高等専門学校の両校と、教育研究交流に関する協定書、博士課程前期課程推薦入試に係る連携協定書を令和7年7月に締結し、これらの協定にもとづきC3ユニット教育プログラムの一つとしてCSI-C3インターンシップを実施した。令和7年度は、専攻科生3名、本科生9名が本インターンシップに参加した。なお、このうち専攻科生1名は、同協定書にもとづき推薦入試により博士課程前期課程に進学予定である。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神戸大学

５－１.大学院（修士課程、博士課程）における学生の研究活動実績

令和7年度 大学院在籍学生の論文の採択・受賞状況や各コンペティション等の受賞状況、筆頭著者論文数等、学生の研究活動実績を記載してください。

システム情報学研究科（博士前期課程、後期課程）
・査読あり学術雑誌採択論文28本(うち、筆頭著者論文26本(M10, D16))
・査読付き国際会議論文35本（うち、筆頭著者論文33本(M27, D6))
・国内学会口頭発表131件（うち、登壇者131件（M109, D22))
・国際学会口頭発表44件（うち、登壇者34件（M10, D24))
・論文賞2件、その他の受賞（発表賞、ポスター賞、奨励賞など）17件
◎ システム情報学研究科ウェブサイトURL http://www.csi.kobe-u.ac.jp/

５－２.大学院（修士課程、博士課程）における学生の卒業後の進路状況

令和7年度 大学院卒業者の卒業後の進路状況を記載してください。就職先企業名や研究機関名、業種、職種、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。

修士課程：博士課程への進学は、修了生全体の約6%で、就職は約89%となっており、就職をする学生の割合が高くなっている。
就職先（産業別）の割合は,情報通信業が59%（日本電気㈱、㈱NTTデータグループ、㈱野村総合研究所他)と 製造業が26%（三菱電機㈱、ダイハツ工業㈱、㈱村田製作所他）で、全体の86%となり、この2業種が主な就職先となっている。就職先（職種別）の割合は、情報処理・通信技術者が71%と、製造技術者（開発）が14%と、全体の85%となり、この２職種が主な就職先となっている。

博士課程：就職した学生は修了生全体の66.7%（3名中2名）である。就職先（産業）は、学校教育（大学を含む）及び情報通信業であり、職種は教員及び情報処理・通信技術者である。

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	神戸大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和5年度	選定時留意事項	事業実施を機に学長主導で学部・大学院の一体改革を行おうとする姿勢を感じるが、基本的にこれまで他大学で行われている改革を取り入れようとする取組に見えるので、事業実施に当たっては具体的な検討を進めて先進的な取組を打ち出し、神戸大学ならではの優れた人材育成につなげることが求められる。	情報教育に特化し数学・物理学・データサイエンス・プログラミングに関する基礎科目や導入講義科目「システム情報学入門」、理数系に特化した外国語教育科目「数理情報英語」からなる「情報基礎教育プログラム」の開発を進めている。「システム情報学入門」では、令和7年度は、Microsoft AI Co-Innovation Lab Kobe、神戸デジタル・ラボ、プライムプラネットエナジー&ソリューションズ、三菱電機、理化学研究所、ATR、富士通スモールリサーチラボからも実務経験者による研究内容に関する講義を実施し、社会におけるシステム情報学の位置付けを意識づけた。また、「数理情報英語」ではシステム情報学の研究成果を英語で説明できるようになることを目指し、専門的な内容の英語表現の修得やそれを応用して英語による模擬ポスター発表を行った。大学院で実施しているC3教育プログラムをさらに充実させるとともに、学部展開への具体的な方法について引き続き検討を行った。
令和5年度	選定時留意事項	神戸近郊中心となっている情報教育プログラムの横展開を他地域にも拡大することが求められる。	専門科目について、他大学の学生が受講できる内容や構成について議論を開始している。数学に関しては、基礎的な例題を取り入れたオンデマンド教材と演習問題が主になる教材を作成し、公開することを考えている。令和8年度に基礎解析、及び線掲載数学に関する教材開発に着手する。令和9年度中の完成を予定している。他の専門科目についても科目の選定を開始し、数学と同時期の公開を予定している。中高生向きの「システム情報学入門」に関しては、まずは、近隣のDX推進ハイスクール採択校である兵庫県立兵庫高校との情報交換を開始している。高校における情報教育の現状とシステム情報学研究科が提供できる内容について継続的に議論を行い、令和8年7月に生成AI活用に関する講義を行う予定である。講義内容について、他校に展開できる内容であれば、教材化を検討する。

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置･増員＋学部等の設置･増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－１.博士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	システム情報学研究科システム情報学専攻

					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		年度			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況			選定								増員	増員		完成年度							
大区分	小区分	項目		単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員		人	12	12	12	12	12	12	12	12	21	24	24								
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員		人	12	12	12	12															
		入学者数		人	6	6	9	6															
		女子学生数		人	1	1	1	0															
		社会人学生数		人	0	3	2	0															
		留学生数		人	0	3	2	0															
	その他の学期	入学定員		人	0	0	0	0															
		入学者数		人	3	4	2																
		女子学生数		人	0	0	1																
		社会人学生数		人	1	0	0																
		留学生数		人	2	4	1																
	入学者合計	入学定員(A)		人	12	12	12	12	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)		人	9	10	11	6	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数		人	1	1	2	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数		人	1	3	2	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数		人	2	7	3	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）		倍	0.75	0.83	0.92	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)		人	12	24	36	36															
		在籍者数(D)		人	6	15	26	31															
		収容定員充足率（D/C）		倍	0.50	0.63	0.72	0.86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数		人	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数		人	-	1	2																
		進学者数		人	-	-	-																
		その他		人	-	1	1																
		進路不明		人	-	-	-																
	大学院博士課程	満期退学者数		人	-	-	-																
		学位取得者数		人	-	2	3																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数		人	23	19	23	41															
		授業科目の単位数		単位	0	0	0	0															

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置･増員＋学部等の設置･増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－２.修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	システム情報学研究科システム情報学専攻

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定	増員	増員	完成年度			増員	増員	完成年度										
	事業計画に定める定員	入学定員	人	80	95	103	103	103	103	135	140	140	140									
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	80	95	103	103															
		入学者数	人	84	97	98	106															
		女子学生数	人	5	4	3	5															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	2	4	5	10															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	80	95	103	103	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	84	97	98	106	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	5	4	3	5	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	2	4	5	10	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.02	0.95	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	80	175	198	206															
		在籍者数(D)	人	84	181	201	207															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.03	1.02	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	77	97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人	-	71	87																
		進学者数	人	-	3	6																
		その他	人	-	3	4																
		進路不明	人	-	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	23	19	23	41															
		授業科目の単位数	単位	6	8	12	12															

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置･増員＋学部等の設置･増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－３.学士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	システム情報学部システム情報学科

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
改組状況				選定	届出	開設			完成年度													
	事業計画に定める定員	入学定員	人			150	150	150	150	150	150	150	150									
		編入学定員	人																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	150	150															
		入学者数	人	-	-	159	151															
		女子学生数	人	-	-	28	24															
		社会人学生数	人	-	-	0	0															
		留学生数	人	-	-	3	1															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	150	150	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	-	-	159	151	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	-	-	28	24	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	-	-	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	-	-	3	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	1.06	1.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	150	300															
		編入学定員	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	159	308															
		編入学者数	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	1.06	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		就職者数	人	-	-	-																
		進学者数	人	-	-	-																
		その他	人	-	-	-																
		進路不明	人	-	-	-																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	19	23															
		授業科目の単位数	単位	-	-	8	18															

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－１.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	12	12	12	12															
		入学者数	人	6	6	9	6															
		女子学生数	人	1	1	1	0															
		社会人学生数	人	0	3	2	0															
		留学生数	人	0	3	2	0															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	3	4	2																
		女子学生数	人	0	0	1																
		社会人学生数	人	1	0	0																
		留学生数	人	2	4	1																
	入学者合計	入学定員（A）	人	12	12	12	12															
		入学者数（B）	人	9	10	11	6															
		女子学生数	人	1	1	2	0															
		社会人学生数	人	1	3	2	0															
		留学生数	人	2	7	3	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.75	0.83	0.92	0.50															
	収容定員等	収容定員(C)	人	36	36	36	36															
		在籍者数(D)	人	53	54	51	47															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.47	1.50	1.42	1.31															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	7	12	11																
		就職者数	人	1	11	7																
		進学者数	人	0	0	0																
		その他	人	6	1	4																
		進路不明	人	0	0	0																
	大学院博士課程	満期退学者数	人	2	2	0																
		学位取得者数	人	5	12	11																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	43	35	23	41															
		授業科目の単位数	単位	0	0	0	0															

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置･増員＋学部等の設置･増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－２.修士課程

年度				R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	80	95	103	103															
		入学者数	人	84	97	98	106															
		女子学生数	人	5	4	3	5															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	2	4	5	10															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	80	95	103	103															
		入学者数（B）	人	84	97	98	106															
		女子学生数	人	5	4	3	5															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	2	4	5	10															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.05	1.02	0.95	1.03															
	収容定員等	収容定員(C)	人	153	175	198	206															
		在籍者数(D)	人	178	185	202	207															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.16	1.06	1.02	1.00															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	90	77	98																
		就職者数	人	82	71	87																
		進学者数	人	6	3	6																
		その他	人	2	3	5																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	43	35	23	41															
		授業科目の単位数	単位	20	24	12	12															

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－３.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	107	107	150	150															
		入学者数	人	110	109	159	151															
		女子学生数	人	6	9	28	24															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	2	3	3	1															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	107	107	150	150															
		入学者数（B）	人	110	109	159	151															
		女子学生数	人	6	9	28	24															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	2	3	3	1															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.02	1.06	1.01															
	収容定員等	収容定員(C)	人	428	428	471	514															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	462	460	515	556															
		編入学者数	人	6	6	4	9															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.08	1.07	1.09	1.08															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	106	101	108																
		就職者数	人	7	8	17																
		進学者数	人	95	93	86																
		その他	人	4	0	1																
		進路不明	人	0	0	4																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	7	7	23	23															
		授業科目の単位数	単位	8	8	24	32															

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

３.大学全体の状況

３－１.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	403	423	423	420															
		入学者数	人	309	335	330	363															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	48	66	55																
	入学者合計	入学定員（A）	人	403	423	423	420	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	357	401	385	363	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.89	0.95	0.91	0.86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	1,293	1,321	1,349	1,366															
		在籍者数（D）	人	1,550	1,578	1,620	1,652															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.20	1.19	1.20	1.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

３.大学全体の状況

３－２.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,280	1,310	1,318	1,330															
		入学者数	人	1,170	1,125	1,265	1,288															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	83	86	87																
	入学者合計	入学定員（A）	人	1,280	1,310	1,318	1,330	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	1,253	1,211	1,352	1,288	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.98	0.92	1.03	0.97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	2,454	2,586	2,624	2,644															
		在籍者数（D）	人	2,514	2,641	2,743	2,788															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.02	1.02	1.05	1.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

大学名	神戸大学	改組内容	研究科等の設置・増員＋学部等の設置・増員（ハイレベル枠）

３.大学全体の状況

３－３.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,530	2,530	2,574	2,574															
		入学者数	人	2,594	2,600	2,656	2,655															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	2,530	2,530	2,574	2,574	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	2,594	2,600	2,656	2,655	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.03	1.03	1.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	収容定員等	収容定員（C）	人	10,639	10,639	10,683	10,727															
		編入学定員	人	140	140	140	140															
		在籍者数（D）	人	11,413	11,389	11,517	11,590															
		編入学者数	人	124	114	116	106															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.07	1.07	1.08	1.08															

４.外部資金の状況（全学）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
競争的外部資金等の状況	全体	研究者数	人	2,101	2,025	2,038	2,107															
		外部資金獲得額	千円	14,865,466	13,968,853	17,819,613		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	共同研究	実施件数	件	472	463	459																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	425	404	396																
		受入額	千円	2,221,594	2,057,713	2,058,794																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	2,062,345	1,837,622	1,893,061																
	受託研究	実施件数	件	400	426	434																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	67	88	73																
		受入額	千円	5,028,670	6,093,354	6,444,872																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	900,818	959,042	1,178,990																
	寄附金	実施件数	件	1,441	1,206	1,247																
		実施件数（民間企業からのみ）	件	346	300	268																
		受入額	千円	1,485,795	1,933,637	1,449,904																
		受入額（民間企業からのみ）	千円	426,326	899,621	367,153																
	その他	受入額（上記に当てはまらないもの）	千円	6,129,407	3,884,150	7,866,043																

特記事項

◎下記の項目について0人と記載しているが、若干名を意味している。（R5,R6,R7,R8）
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」における、1-1博士課程のその他の学期の入学定員
・「２．情報系組織の状況」における、2-1博士課程のその他の学期の入学定員
・「２．情報系組織の状況」における、2-3学士課程の編入学定員
◎「３.大学全体の状況」3-1博士課程、3-2修士課程のその他の学期の入学定員を０としているが、定員数を設定している研究科と若干名としている研究科が混在しており、定員数を表記できないため0人と記載している。
◎以下の項目に記入した2人については、完成年度を迎える前に早期修了した者を意味している。（R6）
・「１．本事業対象となる情報系組織の状況」における、1-1博士課程の卒業後の状況
・「２．情報系組織の状況」における、2-1博士課程の卒業後の状況